



TOCHU SDGs REPORT

2030年に向けた取り組み



TOCHU

X

SDGs



SDGs 宣言



トウチュウでは、創業以来、社訓である『責任感、誠実、一致協力』を掲げ、経営理念における到達目標『みんなの幸せと企業の繁栄』をめざして、品質方針や環境方針に基づき、「法規制の遵守」、「廃棄物、エネルギーの低減」、「環境に配慮した商品提供」、「環境リスクの低減」などの活動を展開してきました。

私たちの社訓、経営理念、品質・環境方針は、国連が2015年に採択した『SDGs (持続可能な開発目標)』が掲げる17の目標とも繋がっていることから、これからも事業活動を通じて、世界基準の社会的な目標であるSDGsの達成に貢献できると考えます。

私たちは、SDGsを「2030年までのあるべき姿」と捉え、その優先課題については「事業活動を通じた社会課題の解決」と「活動を支える経営基盤」を軸に特定しました。今後、長期的な目標、KPIを設定して活動を進めますが、その展開に当たっては、トウチュウで働く一人ひとりが『MY SDGs』としての目標を持ち、自ら考えて行動し、共通課題の解決に向けて挑戦し続けることで、SDGsおよび経営理念の達成に向け、取り組み強化を図っていきたいと考えます。

トウチュウは、「珪砂」の主力事業をはじめ、鑄材、鑄造事業、および新規の事業活動を通じてSDGs達成に取り組み、持続可能な社会の実現をめざしてまいります。

株式会社トウチュウ 代表取締役社長 森田剛司

社訓

責任感

誠実

一致協力

経営理念

「品質至上で冠たる企業の創造」

常に自然環境との調和を保ち価値ある品を求めてこそ、

- お客様の満足が得られ
- 責任感と誠実さをもって、一致協力すれば、信頼され
- みんなの幸せと企業の繁栄が得られる。

品質方針

源流からの品質保証に徹し、価値のある製品をタイムリーに提供することにより顧客の信頼に応える

- ①お客様は何に困っておられるのか、そのニーズを常に情報収集し、改善に繋がります
- ②お客様からのクレームには、何よりも最優先し、迅速に対応します
- ③クレームや不良品が発生しないように、品質レベルの向上に努めます
- ④協力会社を含めて、改善活動を行います
- ⑤関連する法規制を遵守することにより社会的責任を果たします

環境方針

当社が事業活動を行うに当たり、環境に関する規則、条例等の遵守と汚染の予防に努めます。又、事前活動及び当社が提供する商品に係わる環境影響を低減するため、環境目的・目標を設定し、計画的な実践と見直しにより環境マネジメントシステムと下記事項の継続的改善を推進します。

- ①環境負荷となる廃棄物の低減
 - ②生産の効率化によるエネルギーの低減
 - ③生産ロス追求による資源の有効活用
 - ④環境に配慮した商品の提供
 - ⑤工場立地条件を考慮した環境リスクの低減
- 尚、全従業員の環境意識を向上させるため、教育、啓蒙活動を積極的に推進します。

SDGsの具体的な取り組み



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

12 つくる責任
つかう責任

めざす姿

CO₂排出削減

2030年までにCO₂排出量▲30%（2018年比）を目指すことを目標とし、2024年までには具体的な削減施策を立案すべく、『排出量の見える化』と『再生可能エネルギー発電 電力活用』に向けた社内体制整備に主眼を置き取り組みを開始する。

活用資源 CO₂排出量削減推進委員会

| メイン(サブ)ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|--------------|------------------------|------------------------------------|--------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 7.2 | 再生可能エネルギーにて発電された電力活用推進 | 再生可能エネルギー電力活用に向けた社内体制の整備 | 100%完了 | ～2022年 |
| 9.4 | 生産における省エネ活動の推進 | 電気/ガス設備の使用量見える化整備 | 100%完了 | ～2024年 |
| 12.5 | 省エネ知識の啓蒙 | SBTを含めたCO ₂ 削減勉強会の年一回開催 | 100%完了 | ～2024年 |

ターゲットに対して期待する効果

- 7.2** ターゲット : 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる
期待する効果 : 再生可能エネルギー電力を購入することにより、CO₂排出削減につながる。購入に向けた社内体制の整備を行い、2030年までにCO₂削減目標達成へ取り組む
- 9.4** ターゲット : 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取り組みを行う
期待する効果 : CO₂排出量の低減に有効な施策をとるため、まずは多くのエネルギーを消費する設備把握を目的に、時間帯別の使用量検知メーター設置を行う
- 12.5** ターゲット : 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する
期待する効果 : CO₂排出量削減のため、従業員に対し省エネ知識の啓蒙、各事業部に対し品質保証課による良品率向上に向けた支援に取り組む

Pick up!

CO₂排出量『見える化』の取り組みを推進!!

多くのエネルギーを消費する設備の消費量測定

野間事業所/製鋼事業所の二拠点においては、多くのエネルギーを消費する設備に対し、スマートセンサー（電気計）や流量計（ガス）を設置し、どの時間帯にどれだけのエネルギーを消費しているのか？ 無駄な時間帯はないのか？の検証を開始しています。まずは社内において多くのエネルギーを消費している事業体から優先的に取り組みを開始。今後については、計測器から得られたデータを活用し、省エネ設備等を導入。CO₂排出量削減に積極的に取り組んで参ります。

- 2022年度 取り組み
多くのエネルギー使用事業所にセンサー（流量計等）設置

スコープ1-3 による『見える化』

現在、トウチュウ単体におけるSBT（サイエンス ベースド ターゲット）が定めるスコープ1-3の算定に取り組んでいます。今期中にトウチュウ単体の算定を終え、2023年度はトウチュウグループ会社の算定を開始。その後は、算定精度を高めるのと同時に、スコープ3の各カテゴリーにおけるCO₂削減活動に取り組んで参ります。当社は3つの異なる事業展開と、多くの取組先と関係を持ち製品を作っています。そのため、サプライチェーンにおけるCO₂削減も重要と考えています。

- 2022年度 取り組み
トウチュウ単体 スコープ1-3 CO₂排出量 算定完了
※2018年～2021年度

SDGsの具体的な取り組み



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

活用資源 経営サービスセンター

めざす姿

資源利用効率の向上

紙の製造には、水だけでなく多くのエネルギーを消費し自然環境にも影響を及ぼします。また、社用車に対してもクリーン技術を取り入れたFCEV、PHV、HV、EV車を導入し、自然環境保全にも取り組みます。

| メイン(サブ)ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|--------------|-----------------------------|---------------------|--------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 9.4 | 社用車へのFCEV、PHV、HV、EV車の導入推進 | FCEV、PHV、HV、EV車への乗換 | 100%達成 | ~2030年 |
| | ペーパーレス化の推進 ※2020年比 50%削減 | IT化による紙資料の削減 | - | ~2030年 |

ターゲットに対して期待する効果

9.4 ターゲット : 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した、技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取り組みを行う

期待する効果 : 自然環境保全及び、クリーン技術を取り入れた社用車へ変更し、トウチュウの事業においても持続可能性を向上させる

Pick up!

社用車のFCEV、PHV、HV、EV化

社用車のFCEV、PHV、HV、EV化は、現時点で営業車等の乗用車では、42.1%達成。フォークリフトやホイールローダーなどの設備車両は、11.3%にとどまっている。設備車両については、電動車導入とともに、バイオディーゼル燃料の活用も視野にいれながら、取り組みを行ってまいります。

電動フォークリフト

■ 現状の社用車へのFCEV、PHV、HV、EV等の導入状況
乗用車両 **42.1%** 設備車両 **11.3%**

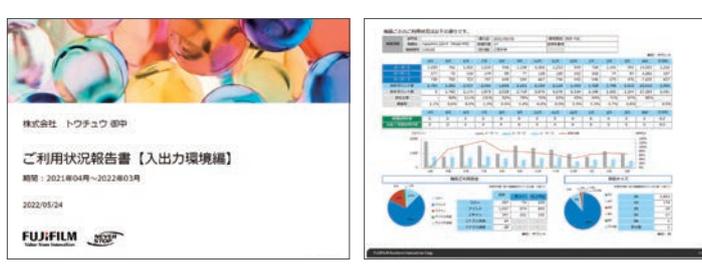
ペーパーレス化

2020年にトウチュウにおいて、複合機から出力されたコピー用紙(A4)は、1,742,293枚。2030年までに50%削減を目指してまいります。2022年度は、現状把握として各事業所毎に最も紙の使用量が多い資料、ワースト5をまとめ、具体的な削減計画を立案し、取り組んでまいります。

■ A4用紙1枚あたりのCO₂排出量は7g!
トウチュウでは、2020年1,742,293枚のA4用紙を使用していました。CO₂排出量に換算すると… **12.1t** の排出となります。2030年までに50%削減に取り組んでまいります。



株式会社 トウチュウ 様中
ご利用状況報告書【入出力環境編】
期間：2021年04月～2022年03月
2022/05/24



富士フイルムビジネスインベージョン機(複合機)を用い、各複合機毎の利用状況を毎月把握しコピー用紙の利用削減に取り組んでまいります。

SDGsの具体的な取り組み



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

12 つくる責任 つかう責任

めざす姿

環境に配慮した新しい製品開発

トウチュウは、鋳物用珪砂事業に取り組み『再生砂』の開発に成功。今後についても『いつも砂夢 THING NEXT THE NEW』を掲げ、環境に配慮した製品開発を目指します。

活用資源 技術開発部

| メイン(サブ)ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|--------------|----------------|---------|------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 9.4 | 環境に配慮した新しい製品開発 | 新しい製品開発 | 5点開発 | ～2030年 |
| 12.5 | | | | |

ターゲットに対して期待する効果

- 9.4** ターゲット : 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取り組みを行う
 期待する効果 : 環境に優しい天然鉱物(珪砂)の利用、プラスチック代替や使用率削減などを目指した環境配慮型製品の開発により、持続可能性を向上させる
- 12.5** ターゲット : 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する
 期待する効果 : 鋳物用珪砂の「再生砂」開発のように、資源の効率化や廃棄物の削減を目指す

Pick up!

新しい製品開発

バイオマス発電から排出される媒体砂(廃棄物)をセメント用骨砂としてリサイクルする製品開発に成功しました。

バイオマス発電からの廃棄砂をグループ会社のトーヨーマテラン製インスタントセメントに採用。

地方自治の許可も取得し、今夏からホームセンターなどで販売されます。



■環境に配慮した新しい製品開発

1点開発達成

※2030年までに5点開発目標

■現在進行中の製品開発

2点開発中

※2030年までに5点開発目標





活用資源

正:営業本部
副:RCS事業部

めざす姿

環境負荷低減製品の拡販

トウチウの主力事業の一つ『RCS』事業。作業環境負荷低減のRCSを拡販し作業環境だけでなく、廃棄物の低減、珪砂の再生利用にもつながり、人体影響、省資源化、廃棄物の削減に貢献する。

| メイン(サブ)ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|--------------|-------------|--------------|---------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 12.4 | 環境負荷低減製品の拡販 | 速乾性水性塗型剤の拡販 | 360トン切替 | ~2024年 |
| 12.5 | | 環境負荷低減樹脂の拡販 | 360トン切替 | ~2024年 |
| | | 作業環境対策RCSの拡販 | 5件 | ~2024年 |

ターゲットに対して期待する効果

- 12.4** ターゲット : 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する
 期待する効果 : 従来品である油性塗型から水性へ入れ替わることにより、人体への悪影響を低減できる効果がある
- 12.5** ターゲット : 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する
 期待する効果 : 崩れやすい中子(RCS)や、樹脂が燃え尽きやすい中子(RCS)は、廃棄物の発生を抑制させRCSについても再利用に回すことが可能となる

Pick up!

環境負荷低減製品 紹介

■速乾性水性塗型とは？

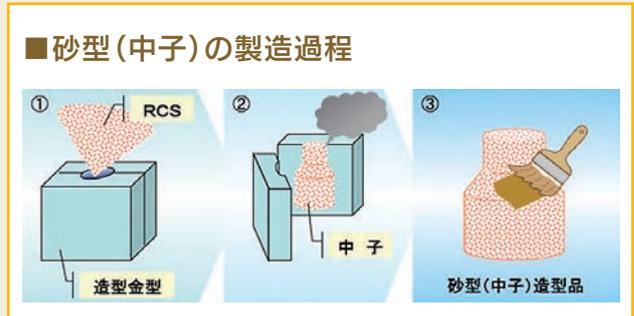
砂型の表面を滑らかにするために塗型を塗布します。材質が水性のため環境に優しい塗型です。(図③) 鑄肌の綺麗な健全な鑄物を作るために、砂型(中子)の表面に塗型剤を塗布します。

■環境負荷低減樹脂とは？

砂型を作るうえで、珪砂同志を固める役割がレジン(樹脂)です。珪砂にレジンをコーティングしたものがRCSです。熱せられた金型にRCSを注入し、砂型が作られます。その際に発生するガスを抑制し人体や環境への影響を軽減します。(図⑤)

■作業環境対策RCSとは？(高易崩壊RCS)

鑄造後の製品取り出しに、砂型の崩壊性(壊れやすさ)を高めた樹脂で作られたRCSです。砂型を壊す際の『時間短縮』『消費エネルギー低減』効果に繋がります。(図⑥)





5 ジェンダー平等を
実現しよう



めざす姿

働きたいと思っている女性の 雇用機会を増やす

男性中心の鋳物/珪砂事業という枠組みを壊し、『女性の特性を生かした働き甲斐ある製造業を目指す』ことを掲げ、女性の雇用機会の創出、女性管理職の登用を目指したキャリアアップの仕組み構築。女性が働きやすい社内環境の整備を行い、誰もが平等に活躍できる場の提供に取り組む。

活用資源 総務人事部

| メイン(サブ) ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|------------------|--|----------------------------|------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 5.1 5.4 | 働きたいと思っている 女性の雇用機会を増やす ※社内女性社員比率 20% | 保育、介護に対する 社内制度の充実 | - | ~2030年 |
| | | 女性の特性を生かした 業務環境の整備 | - | ~2030年 |
| 5.1 5.5 | 女性社員に対する 適正な評価を推進する ※管理職比率 10% | 性別に左右されない 人事評価の仕組み整備 | - | ~2030年 |
| | | 女性の特性に合った キャリアアッププランの構築 | - | ~2030年 |

ターゲットに対して期待する効果

5.1

ターゲット : あらゆる場所におけるすべての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する
期待する効果 : 女性の特性を理解し、男女の特性に合った業務分担、成果に対する報酬制度を推進し、女性に対する固定観念の修正に繋げる

5.4

ターゲット : 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する
期待する効果 : それぞれの家庭における育児や介護の負担を、適正に理解し、行動を尊重する。家庭内からくるハンデを取り払い、平等な評価へと繋げる

5.5

ターゲット : 政治・経済・公共分野でのあらゆるレベルの意志決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する
期待する効果 : 女性の特性に合ったキャリアアップの機会を提供し、女性も抵抗なく管理職に対する意欲が沸く職場環境を整備することで、多様で平等な意思決定の場を増やす

Pick up!

トウチュウにおける女性の雇用が進まない3つの要因とそれらに対する今後の取り組み

女性が活躍できる
職場がすくない

2022年度取組

全職場へヒアリングを行い、女性の配置拡大に向けた課題の洗い出し、分析に取り組みます。

女性が『マネジメント』
を学ぶ機会がない

2022年度取組

『管理とは』『意識改革』『人材育成』など、テーマ別の研修を企画・実施しフォローしていきます。

仕事と家庭の両立するた
めの制度が活用できてい
ない

2022年度取組

制度の社内告知、管理職層への利用しやすい職場づくりの教育実施。

■2021年度
トウチュウ(単体)における
女性従業員比率

12.5%

■2021年度
トウチュウ(単体)における
女性従業員管理職比率

7.6%



10 人や国の不平等をなくそう

めざす姿

外国人への就業の場創出

自国の情勢悪化等により日本で働きたい、または、日本の技術等のスキルを得たいといった意志を持つ外国人に対し、就業の場を創出し、トウチュウにおける珪砂の知識やアルミを素材とする鋳物での部品製造、鉄やステンレスを原料とする鋳造品の技術を得る環境を整える。

活用資源 経営サービスセンター

| メイン(サブ)ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|--------------|------------------------|--------------|-------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 10.2 | 採用 | 外国人の採用(新卒含む) | 10名採用 | ~2030年 |
| | 外国人に対する職業体験の場の提供(新卒含む) | 就業体験の場 提供数 | 10名受入 | ~2030年 |

ターゲットに対して期待する効果

10.2 ターゲット : 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況にかかわらず、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する

期待する効果 : 自国で生活することが困難な外国人が、一時的にも就業の場を得て日本の技術に触れることにより、外国人の能力向上の一助となる

Pick up!

外国籍の方の雇用

2017年に、総合職として初の外国籍の従業員を1名採用。その後2021年までに2名採用に至っています。3名の業務は、外国人実習生のフォローや、障がい者の採用担当、労務担当として現在も活躍中。トウチュウでは今後も外国籍の方を積極的に採用してまいります。

ベトナム実習生 地域貢献

2017年から始まった、ベトナム人 技能実習生の受入制度。当社ではアルミ事業所を中心に日々技能習得に励んでいます。実習生は美浜町を居住地としており、地域貢献の一環として、野間海岸の清掃を実施しました。ベトナム実習生は休日には釣りを楽しむなどしており、海が少しでもきれいになったことに満足げで、やり甲斐を感じています。

- 外国人労働者採用の推移【2017年度】
- 1名採用**
- 外国人労働者採用の推移【2019年度】
- 1名採用**
- 外国人労働者採用の推移【2020年度】
- 1名採用**



中子(砂型)のバリ取り作業



アルミ製品の検査



日本語の勉強会

SDGsの具体的な取り組み



めざす姿

障がいを持つ方の採用及び 職場体験の場提供

生まれつきや事故等により障がいを持つ方に対し、採用を視野にいたした職業体験の場を提供する。未就業の障がい者の方が、働く場所を提供することで収入を得て生きる術を習得し自立するための一助となることで社会貢献を行う。

活用資源 経営サービスセンター、
半田特別支援学校、
春日井高等特別支援学校

| メイン(サブ)ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|--------------|----------------------|------------------------|-------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 10.2 | 採用 | 障がい者の採用 (パートタイマー含む) | 10名採用 | ~2030年 |
| | 障がい者に対し 就業体験の場の提供 | 就業体験の場 提供数 | 10名受入 | ~2030年 |

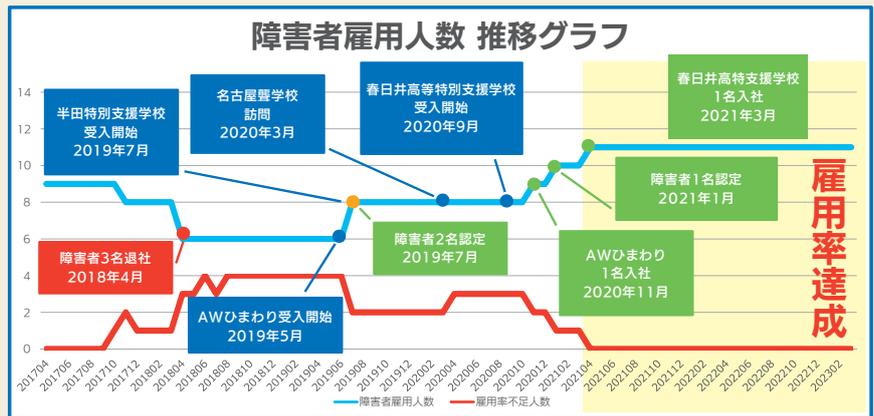
ターゲットに対して期待する効果

10.2 ターゲット : 2030年までに、年齢、性別、障がい、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況にかかわらず、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する
期待する効果 : 障がいを持つ方が、弊社を通じ『社会』に触れられ、自立するための一つのプロセスとなる

Pick up!

法定雇用率 達成

2018年より、トウチュウでは障がい者の採用取組を開始。地域の特別支援学校の生徒に対し、職場実習の受入を行ったり、エヌ・エフ・ユー(日本福祉大学 関連会社)からの指導をいただきながら、3年後の2021年4月までに2名の知的障がい者を採用。現在に至るまで国が定める法定雇用率を達成し続けています。



通函箱の清掃



アルミ製品の試加工

【障害者雇用率】
2022年6月現在 2.3% (11名の雇用で達成)

【今後の課題】

- ①障がい者が辞めない仕組みづくり
- ②継続的な障害者採用の仕組みづくり(今後、高齢の方の退社に伴う安定的な採用ルーティンの構築)

※障がい者手帳を有する方の雇用契約満期年月が、2023年4月と5月の2名存在

【障害者雇用納付金】

2021年5月に発生(2020年4月~2021年3月)するが、来期(2021年度分)からは、障害者雇用調整金の支給を受けられる

SDGsの具体的な取り組み



4 質の高い教育を
みんなに

めざす姿

問題解決できる人材育成 QC活動手法の醸成

老朽化設備の修繕や、エネルギー効率を高めた設備の新設等、工場内において発生する様々な課題や問題が発生します。そのため、課題達成、問題解決できる人材を育成するため、QC活動の手法を学ぶ場を構築。その上で設備修繕、新規設備導入を取り組むことができる人材についても同時に育成する。

活用資源 総務人事部、
メンテナンス統括部、
品質保証部

| メイン(サブ)ターゲット | 自社取組内容 | 業績達成目標 | | |
|--------------|------------------|-----------------------|--------|--------|
| | | 社内指標/指針 | 数値評価 | 期間 |
| 4.4 | QC活動の手法の醸成 | 階層別教育内 QC活動教育の実施(計6回) | 100%完了 | ~2024年 |
| | 設備人材の育成(自主保全士取得) | 自主保全研修センター教育の実施(計18回) | 100%完了 | ~2024年 |

ターゲットに対して期待する効果

4.4 ターゲット : 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる
期待する効果 : 設備人材に対し、課題達成、問題解決の考え方と、設備修繕、新規設置等の技術的な行動がとれる人材を育成し増加できる

Pick up!

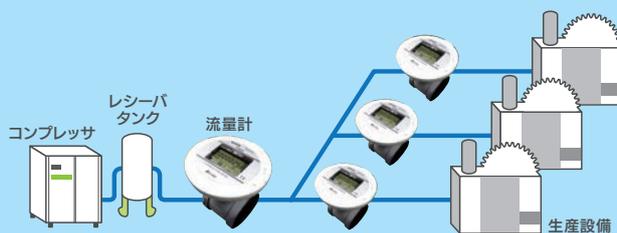
保全研修センターにて 新入社員教育実施

本年入社した新入社員6名に対し、保全研修センターにてものづくりの基礎技能、自主保全、危険体感について教育を行いました。危険体感、検査測定器は関連会社である山本製作所 恵那工場からも2名参加。



〈CO₂削減の取組み〉ガス又はエア設備への流量計設置に向けた勉強会の実施

野間、製鋼事業所は、IoT活用エネルギーモニタシステムを整備済。電力消費の多い設備に電流計を取付けてデータをクラウド上へ自動集約。更に今後必須になる省エネ活動を見据えて、圧縮エアやガスの消費量を把握する為、流量計を導入すべく、担当者を集め勉強会を実施。





今後の目標 トウチュウが目指す姿

トウチュウの始まりは、現在の新南愛知カントリークラブ周辺で、珪砂を見つけたことから始まります。

今まで「ただの砂」と思っていたものが、初代社長の「気づき」により、鋳物製品づくりに必要不可欠な『珪砂(野間砂)』の発見に繋がりました。野間砂は、当時の工業製品を鋳造で作るうえで幅広く活用され、自動車メーカー以外で初めてトウチュウが『再生砂』の製造に取り組み、資源小国 日本において、『持続可能』につながる鋳物砂リサイクル事業を構築しました。

その後、国内珪砂だけでは日本の工業が停滞してしまうことをいち早く感じ取り、海外珪砂に注目。国内珪砂、再生砂、海外珪砂をバランスよく用いることで、安定的に珪砂を供給し日本の鋳造業を支えてまいりました。

当社スローガンである 「いつも砂夢THING (something) NEXT "THE NEW"」は、新しい商品や新しい可能性を追求したり、新たな事業基盤を作る

ことを意味しています。ただそれだけに留まることなく新しい気づきや「つながり」、新しい仲間など、これらも含めて「何か新しいもの」を探求することが、大切であると考えています。

そのため、「つながり」や「自分も支点(世界ともつながっており、自分自身も世界に影響を与えることができる)」に気づかせてくれる2030 SDGsゲームを階層別教育に導入し、「自分さえ良ければよい」ではなく、「自分もいろいろな問題に関わっており、自身も影響を与えられる」発想に従業員一人ひとりを変革してまいります。また、障がい者の方、女性の方、外国人の方とともに働き続けられる会社となることにも取り組んでまいります。

『珪砂』につながる、あらゆるモノやコトに目を向け、新しい視点や新しい仲間をつくり、新たな仕組みや世界を創り上げ、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

